

先週の水曜日から大齋節に入りました。大齋節は当初イースターに洗礼を受ける人等が守ってきましたが、今日では主イエスが洗礼を受けられた後、四十日四十夜断食して悪魔の試みに合われ、勝利を治められたことを覚えて、私たちも自己の修練の時として過ごすようになりました。これは大齋始日の礼拝の中で朗読される言葉であります。一年間のうちで最も厳粛な時ですので、私たちも心して過ごしたものです。

さて、本日の福音書はまさにその主イエスが悪魔の誘惑と戦われた箇所が短くまとめられておりました。天使たちが主イエスに仕え、主イエスは悪魔の誘惑に立派に打ち勝たれたのであります。

教会では大齋の最初の日、すなわち大齋始日と主イエスが十字架にかかられた受苦日の二日間を断食日と定めております。もっともこれは義務ではなく、主イエスの四十日にわたる断食を覚えて共にその苦しみを分かち合う一つの手段として勧められているものです。

本日の福音書には書かれておりませんが、主イエスは悪魔から三つの誘惑を受けられたことが他の福音書に記されております。主イエスが四十日を過ごされた荒野は大変乾燥しているところです。日差しも強いため岩もぼろぼろになって角がすっかりとれて丸くなっているそうです。その形は主イエスの時代にパンそっくりだそうです。悪魔が主イエスにした最初の誘惑は、このようなことだったのです。

第二の誘惑、ここから飛び降りてご覧なさい… ここで悪魔は聖書の言葉を用いて主イエスを誘惑しました。悪魔は聖書をすべて知っているのです。そこにかかっている内容をすでに知っているのです。それに対して主イエスは主なる神を試みるべきではないと退けられました。

第三の誘惑は、主イエスの使命に関することでした。もし世界が自分のものになれば苦難に満ちた伝道も、十字架も味わう必要はないのです。悪魔は世界中の人々を自分のものにするに絶対的な自身を持っていました。拝むとは、そういう悪魔と罪の中から解き放たれることの出来ない人間、天国に迎え入れられることのない人間を認めることになるのです。しかし主イエスはそれも

きっぱりと拒否なさいました。それは十字架の使命を自分の身に負われるということでした。

この主イエスへの悪魔の誘惑は、考えてみれば大変なことだったのがわかります。空腹の時に、石がパンに見えてしまうような時に、自分のために神の力を使いなさい、そして満腹になりなさい。高いところから飛び降りて怪我一つしないところを見せて、人々をびっくりさせてやりなさい。それを見た人々はあなたを王にすることでしょう。私を拝むならば、私は必ず世界中の人々を墮落させてあなたのものにしてあげましょう。そうすればあなたは苦しい伝道も苦難の十字架も味わう必要はなくなります。これがいかに巧みであり、主イエスにとって欲しい存在であったか容易に想像されます。主イエスが戦われた誘惑はこういうことだったのです。

私たちはこの大齋節に、特に悪魔という存在を心に留めて過ごします。悪魔とは、人間以上の力を持ち、聖書の内容をも誘惑に用いる存在であり、私たちの限界を超えて人間を誘惑してくるすべての存在、目に見えるものも見えないものも含めて私たちを誘惑に落とし入れようとする存在すべてを差すのです。私たちが独自で立ち向かい、勝利を治めることは困難な存在だということが出来るでしょう。

悪魔はたしかに超人的な存在ですが、正しいことが出来ません。聖書の教えを知っていても、守ることも出来なければ愛することも出来ないのです。主イエスは本日の福音書を通して主なる神に従えないもの、愛することの出来ない存在を決して恐れてはならない、魅力を感じてはならない。ただ神にのみ仕えるということを今一度決心しなさい。そう教えておられます。主につながっていれば、悪魔がどのような巧みな存在であろうと、そこから救いだしてくださる。だから主なる神の声が聞こえなくならないように、しっかりと主に仕えていなさい。主イエスはそのように教えておられます。大齋の修練は、なにか特別のことをするのではなく、私たちが主なる神に仕えることを徹底的に励もうと努力することです。始まりました大齋節を実り多き時と出来ますよう、導きを祈りつつ、励みたいものと思います。